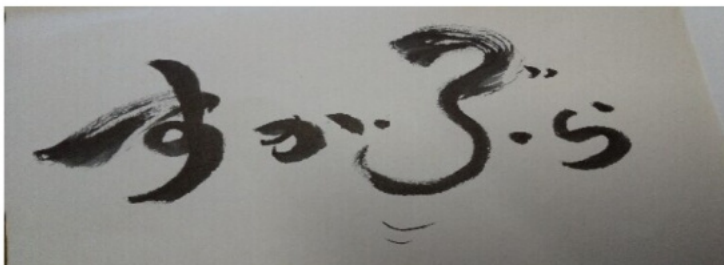


心が疲れても、  
疲れる前でも

ボランティア部をボランティア！？  
していたころの天地成行。すべてはここから

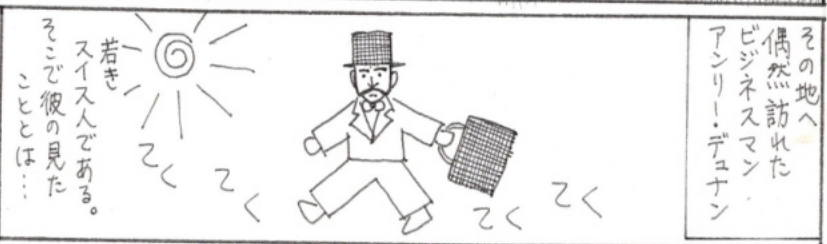


第一号のラインアップ

特集—編集長・天地成行

「ゆるいつながり論」— 國學院大・松本貴文准教授  
大学生がみた天地成行— 二〇二二年の講演から  
うれしはずかし自由律俳句  
マンガ、イラスト、写真など

赤十字・Red Crossのはじまり





師匠・河村正浩さんと紡いだ定型俳句一年目を形に  
 天地成行 (小森裕之=周南市) 著

「言」  
 集



自然を愛でる感激の日々を「セラピー」に



時に吟行、時に自由律  
 四季折々に添削  
 読んでみて

山口県立大学名誉教授の安溪遊地さんのブログ上にて掲載  
 ネット検索で「安溪遊地」、ブログサイト内で「天地成行」

オープニングセレモ  
 ニー・天地成行あり  
 方委員会

(チユンチユン)

天地成行B..あつ、  
 スズメが楽しそう。

(ホーホケキョ)

天地成行A..おっ、  
 こちらはウグイス。

楽しい春だなあ。我々  
 もコロナが大体落ち  
 着いて、任務を果た  
 したようですね。

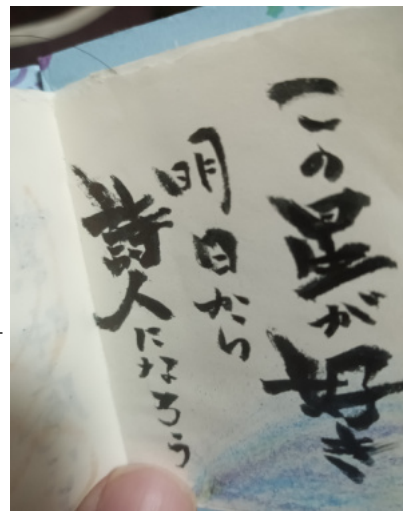
いよいよ星に帰る  
 ときですか？

天地成行C..ばかた  
 れー、からの焼鳥の  
 たれ。最近の地震

に、すでに真夏日が  
 来て、自然が悲鳴を  
 あげているではない  
 か！地球防衛軍とし  
 ての役割はとどまら  
 んぜ。というわけで、  
 「みんつど」をステッ  
 プに今度は「すかぶ  
 ら」を発行するでよ。

天地成行A、B..  
 「すかぶら？」

天地成行C..昔、炭  
 鉱ではろくに仕事を  
 せずに、周りの労働  
 者を「スカッ」と笑  
 わせる「ブラブラ」  
 していた職種があっ  
 たそうだ。しかし、



みんつど  
 編集部の  
 ミッシヨ  
 ンである。  
 天地成行  
 A、B..  
 ついてい  
 きます！

合理化で真っ先にな  
 くなった。だが、作  
 業効率はそのすぐく  
 落ちたそう。見た  
 目や数字に惑わされ  
 るな。世の中に求め  
 られる「ヘンテコな、  
 モイスチャーデー  
 プな」世界を今ここ  
 に編むことが、天地  
 成行の使命である。

天地成行C..とはい  
 いつつ、真面目にや  
 らない。楽しんでふ  
 ざけながら、こんな  
 息抜きもあるんだね  
 うという形を提供で  
 できれば大成功。失敗  
 してもなんのその。  
 なりゆきに任せ世の  
 中の潤滑油になろう。

## 特集

「ゆるいつながり論」——『コロトトノウ、俳句ごっこ』の解説にかえて

天地さんからメールが届き、新著の解説を依頼される。俳句に関する本とのこと。どうしたものか悩む。私は文学部の出身（一応、大学院修士課程も文学研究科だったので、文学修士を持っている）とはいえ、専門は社会学。学部の際に履修した日本文学の授

だろうか。

「ゆるいつながり」という言葉は、それ自体が極めてゆるい概念である。ざっくりといってしまうえば、合う頻度はそれほどでもない、生活上重要な利害関係を共有していない、そのような人との関係のことである（学術論文ではないので、多少のゆるさには目をつぶっていたきたい）。

本書には、河村先生だけでなく、天地さんが俳句を通して

業も、途中で出席するのをやめてしまったりほどの文学音痴（今でも小説はもっぱら探偵小説と決めている）。そんな次第で、まともな解説が書けるのか、不安しかない。とはいえ、天地さんとは「みんつど」創刊の頃からのご縁である（やりとりはいつもネット上だけ）。引き受けないわけにはいかないというのが、人情であろう。

と、ここで一つビツとくるものが。



徳永雄介作「フワちゃん」

出会った人たちの名がたくさん登場する。そして、こうした人たちとのつながりなしに、『コロトトノウ、俳句ごっこ』という本は決して完成しなかっただろう。

本書は俳句の本であると同時に、天地さんとその俳句の師である河村正浩さんとの、出会いから今日までの交流を描いた本でもある。「人と人とのつながり」は、まさに社会学の対象そのものである。そこに焦点をあてれば、何か書けるのではないか。そうした思い付きから、今回のお話を引き受けることにした。以下、私自身が一番最近関心をもっている「ゆるいつながり」の大切さという観点から、本書の

天地さんの俳句を通して成長もまた然りである。天地さんは、俳句を通じてたくさんの人と出会い、そこでのやり取りから癒しを得たのではないか。

面白さに迫ってみたいと思う。

天地さんの俳句との出会いは、「病氣」と深く関係している。そして天地さんは俳句にセラピー効果を、見出している。なぜ、俳句によって「コロ」が「トトノウ」のだろう。この分野について素人でしかない私には、勝手な想像を巡らせることしかできないが、一つの理由は、俳句を通して、人との「ゆるいつながり」が生まれるからではない

そのような直感を支えるのは、天地さんと河村先生のやり取りである。句の内容について、河村先生の添削は率直で、そこだけ見れば少し厳しいようにも感じられるかもしれない（一教員として、学生のレポートなどは、まず良いところを指摘してから批判をするように心がけている）。しかし、『わたしは山頭火!？』の出版に際してのエピソードなどを読むと、先生の優しさに

心打たれる。そのことを意識して添削を読みかえすと、その率直さが、河村先生が俳句を学ぶものとして天地さんを認めていることの表れのように思えてくる（あくまで私の主観



タカさん撮影

的な思い込み)。このような人とのつながりや認め合いのなかに、癒しにつながるものを感じるのである。

いささか自分の主観的な思い込みのもとに、本書とは直接かかわりのないことを語りすぎたのかもしれない。本論（「論」というほどのものではなくないが）を締めくくるにあたり、さらに横道にそれることを覚悟のうえで、「ゆるいつながり」と「地域

づくり」との関係について少し持論を述べたい。私自身、農村の地域社会を研究しているのだが、これからの「地域づくり」にとって必要なものの一つは「ゆるいつながり」作りだと考えている。もちろん、「そんなものいくら作っても力ネにならない」、という批判を受けることは承知している。しかし、今、私たちの生活に欠けているのは「力ネ」だけではないだろう。むしろ、「ココロトノウ」

ような「つながり」の「場」が求められているのではないかと（「力ネ」は会社で稼いだって良い）。そして、天地さんはこの「ゆるいつながり」作りのスペシャリストのように思う。本書の魅力一つは、俳句を通してこの様なつながりの意味を浮かび上がらせている所にあるのではないか。

松本貴文（國學院大学観光まちづくり学部観光まちづくり学科准教授）

## 特集 天地成行、某大学で講演・学生からの感想

ここからは、二〇二二年六月某大学で、天地成行が二回生向けに「精神保健福祉の原理」という授業でゲストスピーカーとして呼ばれた授業での学生さんの感想を三人ほどご紹介することにします。参加者は二十六人であった。ここで天地は、「精神障害をポジティブにとらえる」というメインテーマで六



金光光雄作「梅沢富美男」

十分、質疑応答で三十分ほどを使い学生たちと交流を深めた。

◇ ◇

以下、学生さん感想である。

A  
まず、私自身は今ま

で統合失調症の人と対面したことがなかったため、授業で得た知識を持ちつつも、統合失調症の人と会うことに少し不安を感じていた。しかし、実態に天地さんと会ってみて非常に明るい印象を受け、統

合失調症の人に対するイメージが大きく変わった。勿論、天地さん自身が講演をするまでの過程で多くの不安を抱えながらも、統合失調症を理解してほしいという思いで過去の出来事などを勇気を出して話してくださっているということを理解した上で、私自身も統合失調症について、統合失調症と共に生きる人について正しく理解したいという思いが強まった。

今回の講演では、天地さんの精神障害に対する捉え方が特に印象



金光光雄作「手塚治虫」

に残った。天地さん自身は、統合失調症と診断された当初は現実を受け入れることができなかったが、精神障害をポジティブに捉えるようになったことで自身を段々と受け入れることができるようになった

たとおっしゃっていた。私自身、そのエピソードを聴くまでは、精神障害をポジティブに捉えるという発想がなかったし、どうしてもネガティブな捉え方をしてしまっていた。しかし、「本当の人間関係がで

きる」「人に優しくなれる」「慎ましやかに生きる」ことができる」など、捉え方によって精神障害は人としてあるべき姿になれるチャンスを与えてくれてくると考えることもでき、ポジティブに捉えることの大切さを実感した。実際、本当の人間関係ができるまでの過程は統合失調症に偏見を持つ人を切り捨てていく悲しい作業であるかもしれないが、仮に家族や職場の人や友人などと疎遠になってしまっても、自身を心から理解してくれる人が一人

でもいることは非常に大切なことであると考える。一方で、天地さんは家族が信頼できる関係性の一つであるとおっしゃっていたが、家族に突き放される形で病院に入院させられてしまったり、長期の入院生活で希望を失ってしまったている人はそのような本当の人間関係を作ることができないのだろうかと考えた。天地さんのように通院しながら地域社会で生活している人だけではなく、病院に長期入院している人々が未だに多く存在しているのが

実態である。そこで、精神保健福祉士がそのような人々の信頼できる存在となつて、彼らが地域社会で再び健全な生活が送れるように支援していくことが

大切であると考えてる。

B  
まず最も感じたことは、すごく準備をしてきているということである。統合失調症は

日によって体調が良かったり悪かったりするらしいので、入念な準備が必要だったかもしれない。今回天地さんが大学に来られたのは、体調面で幸運にも良かったのか、それとも大事な日に、体調を整える秘訣があるのかを聞けばよかったです少し後悔している。私は統合失調症ではないの

シャーにとっても弱い。なかでもテストの日は最悪であり、朝から吐き気や過呼吸気味になることが多い。大学入試センター試験でも過呼吸になったことがあり、別室受験を経験した。

統合失調症の人であっても同じ人間であるので、大事な日の体調を整え方やメンタルの支え方から何かヒントをもらえたかもしれない。もっとも統合失調症の場合は薬である程度症状を抑える場合があるので、統合失調症でない人にとってどれくら



天地成行著「わたしは山頭火!？」を読む海辺のオカピー

ではないのだが、プレッ

ではないのだが、プレッ

い参考になるかは、未知数であるのは考慮に入れなければならない。

もう一つ感じたことは、天地さんは「地域」というものが好きそうだなと思った。やはり体や精神にハンデを負っているとも周りの支えがどうしても必要になるのだろう。福祉の立場としては、地域の協力が必要なのは非常に良く理解できるが、私としてはどうしても地域との協力というのが馴染めない。私は大阪という大都会で育ったので、近所付き合いが少なく、そこまで地域と

などのさまざまな記載があった。そのため、事前に天地さんのことを想像することができ、天地さんに実際にお会いするのが楽しみになった。特にエピソードトクの部分では、20以上の項目が短いかつ興味をそそるような文章で書かれていた。新聞記者として働いていた経歴も関係するとは思いますが、本当に新聞を読んでいるように楽しかった。

また、私は、講演内容を当日に全て把握することが難しいことが多々あるため、選択肢

いうものを意識したことがなかった。また、中学受験を経験したこともあり、地元の同級生とも関わりがほとんどなかった。今回天地さんを見ていると障害を持つたり、体が弱つたり、年をとったりすると地域の繋がりがどうしても必要にならざるを得ないように思えた。天地さんはどちらかと言うと地域の繋がりがあるところで生活していたようであるが、身体的、精神的にハンデを背負っている現状を鑑みると、地域の繋がりがあって本当に良

や話すことを事前に知ることや質問がともしやすくなる。当日は気になるエピソードを聞くことができ、自分の自信にも繋がった。エピソードトクの中で印象に残ったのは、「東京の精神科の先生 エッセイ」である。最低点の自分も認めてあげる、can't want toなどの言葉は、特に心にスツと入ってきた。言葉にすれば簡単なようだが、この2つが出来る様になるのはとても難しい。しかし、この言葉通りに出来ない自分も認めていくとい

かったと思う。逆に「地域」というものになかったら天地さんは今のようにならなかつたと思う。

都会では地域の繋がりを思い出せないかを考えたいと思った。確かに地域の繋がりとはい点では確かに田舎よりは薄いかもしれないが、一応町内会などは存在する。地域で近所の神社で地藏盆なども行っている。そういうところが都会における地域の繋がりを強くするカギになるかもしれない。

うことではないかと解積した。「どこにも出せない怒り」  
天地成行の巻精神障がいやポジティブにとらえるの話で登場した「どこにも出せない怒り」に強く共感した。カウンセラーや精神科の先生、友人など沢山の関係をもち、相談場所が複数あったとしても、行き場のないし抑えることが出来ない怒りは存在する。その心や気持ちが一番近い家族に向かつてしまふことも当然ある。しかし、そのことが「家

C

天地さんの講義の中で、精神障がいやポジティブにとらえる、受容を少しづつしていくという部分が印象的であった。当日は、天地さんの講義を楽しいものにしてほしいという思いと緊張がとも伝わってきた。この講義を最後まで受けられて本当に良かったと思う。

エピソードトク

講演の際に事前資料や質問の種になるものがあると、質問がしやすくなる。事前資料天地成行の巻は、天地さんのあいさつから考え

族愛が確認できる」と同様のことだと考えたことはなかった。光の当て方でも話があったが、逆転の発想や反対側から見てみる方法を次回悩んだ時に使ってみようと思う。怒りの感情が少しでもポジティブなものに変化するかもしれない

また、感想を書いているとき新たな質問が生まれた。それは、本人の受容だけでなく、家族の受容はどのくらいかかったのか、何か方法はあったのか等の事柄だ。また機会があれば是非聴いてみたい。



◇うれしはずかし自由律俳句コーナー  
(写真Kさん提供)

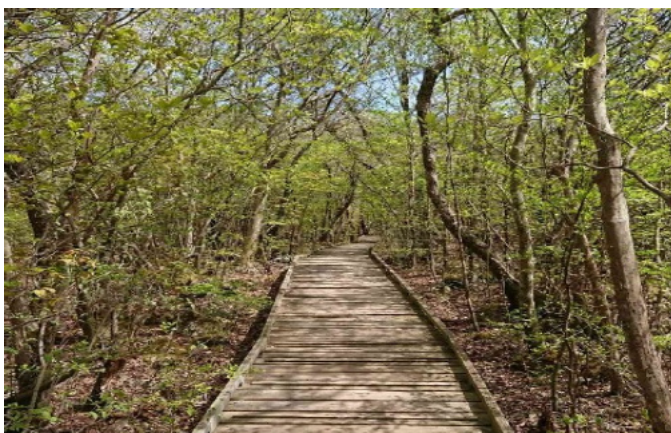
桑田さんの作品

明日は父の命日高卒  
祝いにもらった時計

元気です

猫が来てまもなく一  
五年、朝のおやつが  
楽しみだね

物壊れて買え替えし  
たら、これが人生最



猫ちゃんおや  
つが楽しみ一  
五年

還暦も買い替  
えが必要 今  
を生きる

Kさんの作品

森の静かな始  
まり

君の手を握り  
たくなる

天地改作

ここからが君の心  
の洗濯だ

優しくなれる緑のシャ  
ワー

後かなと思う六〇歳

天地改作

父よ あなたにもらっ  
た時計は元気です

### なりゆき散歩・光編

五月中旬。朝タバ  
コを買いに行く。坂  
道を登る巨体の額に  
は玉の汗。ゼエゼエ  
ハアハアぜえはあは  
あ。

おばちゃんに「あ  
りったけの「キャメ  
ル」をおくれ」とジョー  
クをかまし、自販機  
の前に座りタバコを  
吹かす。

すると、一羽のク  
ロアゲハが近づいて  
頭上を旋回し、神社  
がある森へ。

「揚羽蝶頭上旋回お  
まじない」などと一  
句浮かび、家に帰る  
のをやめ、クロアゲ  
ハが去った方向の道  
へ歩みだす。のっし

のっし。

バス停にでた。一  
番先に来た方に乗る  
か。下松行きがきた。  
乗り込む。駅につく。

先に来る電車に乗る  
か。岩国行き。カネ  
がないので光で降り  
た。バスが来ていた。  
室積行き。室積下車。  
呉服屋のガラスに、

書道展が開催中と  
あり、おばちゃん  
に、きいて向かう。

山頭火の句を七人  
で書かれていた展  
示会で主催者と話  
が弾む。河村正浩  
先生、富永鳩山先  
生を師匠にもちあ  
らためて心強さを  
感じる。そうだ、  
海辺のオカピーに  
久しぶりに会いに  
行く。



タカさん撮影



久しぶりのオカピーは「通常運転」だった。作品づくりを間近で鑑賞。「みんなも大切にしてくれ」も大切にしてくれている。モノクロの自分の作品や金光光雄さんの作品が彼にさらなるインスピレーションを与える、という。

帰り道は櫛ヶ浜駅で下車。腹が減っては戦はできぬ。もう戦などいらぬ。NO WARだ。お好み焼き屋で麵ダブルにごはんの、炭水化物祭りを、カウンターの親

父の前でペロりと平らげ、あ然とさせて場を去る。しかし腹部に走る鈍痛。余力を絞りタクシーに乗り込む。若めの女性ドライバー。母の日近く話を向けると、近年他界されたそうで私の句「ふかふかの布団お母さんの中みたい」「母の枕嗅ぐ」に共鳴されていた。

メダカ屋の親父と下車後に会釈。話し込む。しかし、話がかたくなに話さなかった。エスカレーターしたところで親父さんにつ

いていけない思考になり「逃走疾走症状」。帰宅となる。

なりゆき散歩（バス、電車、タクシー）を使いすぎや！）はなりゆきで開催中。のっしし。

#### ◇編集後記

一点説明しておきましょう。「どうして俳句でトノウ」か。國學院大・松本貴文先生の解説。頭の中のものもややを封印して五七五の作品にすることで、自分の中で整理されて、筆筒の引き出しにしまい込める。そんな機

能があるのである。

またこの「すかぶら」では、天地や編集部のみなさんが「スカットとブラ」して取材してほしいところを募集。企業など、普通の広告記事みたいにはなりませんぞー。まだ一号なのでわかりづらいかもしれませんが、我々は楽しんで作っていつて、その普段味わえないようなブラブラ加減を今ように魅せる紙面づくりをしていくので宜しくお願ひします。お問い合わせは、メールアドレス「anchi2020@outlook.jp」まで。



編集部：天地成行 桑田哲郎さん Kさん  
効さん KTさんほか

定価：300円